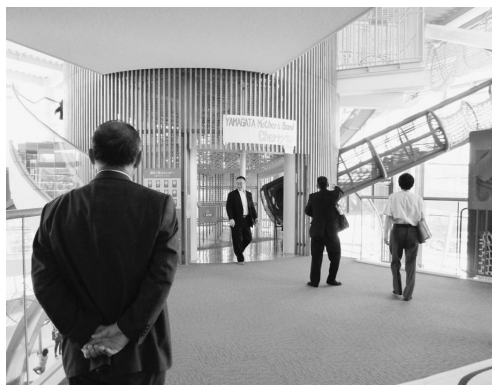


月をかけて協議検討が重ねられていました。松浦市でも市民の保健、福祉、医療のサービスを有機的かつ総合的に提供できる施設の整備が望まれ、総合福祉保健センターの構想が練られている段階です。その成功の鍵は運営体制の構築であり、施設整備の立ち上げまでには十分な準備が必要であると思われます。市民とともに英知を結集し、建設に向けた行動をすべき時期にあると感じました。



東根市総合保健福祉施設

村山市は、全市をあげて読書に取り組むこととして「読書シティむらやま」を平成22年に高々と宣言し、同年に新しい図書館が開館しています。松浦市とあまり変わらない人口規模2万7千人でありながら、入館者数は月平均1万2千500人という実績があります。図書館資料の充実に加え、ICTタグの導入、大活字本や

朗読CDの増設など市民の要望に沿ったサービスの向上に努めていました。さらに、年間を通じて県や地区と連携し各種イベントの開催など読書に親しむための多彩な仕掛けが行われています。指定管理制度の導入は、開館当初から議論があったものの図書館運営は営利が関係するものではないことから、指定管理者に運営させるのは難しいのではないかと考えられ、市直営となっています。職員に関しても、情報提供を円滑に行うためには業務経験が求められることから、長期間雇用や業務委託が必要だとのことでした。

本市立図書館運営の更なる飛躍を期すためにはどうすればいいのか、今回の調査結果を参考に、市議会としても共に知恵を出し合いたいと感じました。



村山市図書館

産業経済委員会

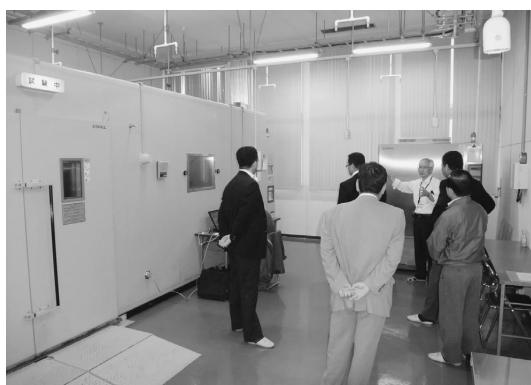
平成25年7月2日から7月4日までの3日間、岩手県花巻市の「起業化支援の取り組み」についてと秋田県湯沢市の「国体の民泊及び循環型農業推進事業」について行政調査を行いました。

【調査概要】

花巻市は、新事業創出基盤施設として花巻市起業化支援センター、花巻市賃貸工場、花巻市ビジネスインキュベータを設置し、ベンチャー支援を全面に打ち出して誘致企業と地場企業の融合や地域間、企業間競争に向けた地域企業の意識改革が行われています。花巻市起業化支援センターには岩手大学の出先機関もあり、有機薄膜の研究開発が行われています。3Dプリンターを活用した試作品作りや高低温での製品の耐用テスト機械が設置された研究室内を見学することができました。

同センター独特の運用方法としては、プロパー職員を配置し専門性が確保されているため、企業との交渉の中では信用度も高く評価され安心感が得られているとのことでした。また、センターの設置成果を表す投資と効果を試算し、その結果を提示しています。平成21年には収収等の効

果によりプラス成果が現れています。同市には産業支援施策も充実しています。農工商が連携した一次産業の生産から加工、販売に至る6次産業化への支援プロセスと事例を聞くことができました。新規企業の誘致とともに地元産業や起業家の育成も手厚く、本市の地元産業育成の取り組みにも参考となることが多くありました。



花巻市起業化支援センター

湯沢市での国体の民泊は、選手がいきなり気持ちよくプレーして感動を与えられることができ、市民も一体となつて応援に繋がるようにとの考えから実施したとのことでした。民泊といつても、食事は調理班を編成して1か所を提供する体制をつくり、民家の負担を軽減する対策がとられています。